

ひととひと まちとまちをつなぐ芸備線

～芸備線再構築協議会で取り組む実証事業と再構築方針～

地域交通課芸備線対策係 ☎0824-73-1171

7月16日、第7回芸備線再構築協議会が広島市で開催されました。

今回は、実証事業ABや再構築方針作成などに関する調査事業などの実施状況が報告され、最適な交通モードの判断に当たっての論点整理について協議が行われました。

■令和8年度 芸備線再構築方針作成等に関する調査事業(方針作成等調査事業)実施状況 ⇒実証事業ABに関する調査事業について報告されました。(A:JR、B:バス)



1 実証事業Aを補完するデータ収集 JR臨時列車 休日日中増便の結果

成果



- ・増便を含む芸備線の運行が、遠方からの来訪促進につながった
- ・増便列車が新規来訪者の獲得に寄与した

課題



- ・12月以降に利用が減少しており、年間を通じた安定的な需要の創出に課題がある
- ・特定区間沿線が宿泊や買い物などを行える拠点が限られており、受入環境に課題がある



2 実証事業Aを補完するデータ収集 二次交通調査の結果

成果



- ・観光客向けの二次交通（シャトルバス）は一定の利用があった
- ・新規誘客に寄与しており、地域での観光消費拡大に寄与した

課題



- ・住民向けの二次交通（定額乗合タクシー）は伸び悩み、駅からの二次交通整備や芸備線のダイヤ変更だけではニーズに応えられていない



3 地域経済効果の比較検討 実証事業Aを恒久化した場合の費用と効果

成果



- ・一定の集客につながったものもあり、事業単体としては費用を定量的価値が上回った
- ・芸備線の存在が、地域の絆や活力の醸成につながっていることが示唆された

課題



- ・年間費用として試算した場合、8.3億円の事業費に対して、4.1億円の定量的価値となる
- ・定量的価値全体のうち地域が受益する価値は約4割にとどまり、その主な原因は「芸備線の乗車自体が目的」であることによる



4 実証事業Bを補完するデータ収集 平日バス調査(高校生モニター)の意見

実証バスに乗車した人の意見をまとめました。



良いところ
・乗降位置



変わらないところ
・乗り換えの手間
・ダイヤ
・課外活動時間の増加
・移動時間の短縮



悪いところ
・乗り心地



5 実証事業Bを補完するデータ収集 平日バス調査(1便当たりの平均乗車人数)の結果

新見 → 東城	3.9人	人 人 人 人
東城 → 新見	4.3人	人 人 人 人 人
東城 ⇄ 落合	0.3人	人
落合 → 西城	0.2人	人
西城 → 落合	0.6人	人
西城 → 庄原	1.0人	人
庄原 → 西城	0.6人	人

※データは6月調査の平均値

8月3日から、実証事業B・バス(平日)のダイヤを改定しています。
詳しくは市ホームページをご覧ください。



実証事業の最新情報はこちら
(市ホームページ)



調査結果・資料はこちら
(中国運輸局ホームページ)



市民と市長をつなぐ提案箱

経営戦略課シティプロモーション係 ☎0824-73-1159

庄原市をより良くするため、また、市政やまちづくりの参考とするため、市民の皆さんの建設的なご提案を伺う「市民と市長をつなぐ提案箱」を市役所本庁舎および各支所に設置しています。

本年度は、4月から7月の間に、市民の皆さんから17件のご提案をいただきました。お寄せいただいたご提案は、全て「市長」が自ら読ませていただいております。皆さんからのご提案については個別の回答は行いませんが、本年度に寄せられた提案の一部を抜粋して、報告します。

寄せられた提案の一部を紹介します

提案 現在、市内在住の高校生の半数以上は、本市から離れて進学や就職をしている状況です。

若手労働者の確保は、本市にとって重要な課題だと思っています。そのため、高校卒業後に市内企業で就職する生徒には、市からの就職祝金を30万円支給すればどうでしょうか？本市に就職する事によって、人口減少の軽減、税収の上昇、さらには結婚につながる可能性もあります。

30万円なんてすぐに回収できますし、企業も若手労働者の確保につながります。ぜひ検討してほしいです。

市長 市としても、卒業した生徒の多くが市外に進学や就職をしている現状は把握しています。本年度より、庄原の魅力を再認識し、誇りと愛着を高めることを目指す「庄原ブランドینگの推進」に取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、将来的に子どもたちの地元就職やUターン就職にもつながる施策を検討してまいります。

いただいたご提案は、関係課と共有し、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。

その他、こんな提案も…

- 市内タクシーの利用環境について
- なみか・ほろかによる市窓口支払への対応
- 里山の駅庄原ふらりのイベント（マルシェなど）について
- 川北川の活用について

ご提案はこちらから↓



子どもたちのより良い学びのために ～庄原市立学校のあり方の検討～

教育総務課総務係 ☎0824-73-1182

■児童生徒数の推移

区分	平成17年度 (合併時)	令和8年度 (現状)	令和14年度 (将来推計)
小学校	2,009人	1,188人	786人
中学校	1,154人	695人	560人
合計	3,163人	1,883人	1,346人

「子どもたちが学びたい、保護者が学ばせたい学校」を基本に、目指す学校の姿や、それを現実にするために必要な教育環境を考え、「庄原市立学校のあり方の基本方針」をまとめていきます。

検討していく事項

本市では、少子化に伴う学校の小規模化が急速に進んでいます。また、デジタル技術の急速な発展や価値観の多様化、グローバル化の進展など、私たちを取り巻く社会も大きく変化してきています。こうした現状において、子どもたちが将来求められる資質・能力を育み、生き生きと学べる環境を作るため、市教育委員会では、市立学校のあり方の検討を進めています。

検討の進め方

教育関係者や保護者などで構成する「庄原市立学校のあり方を考える会」との意見交換を行うほか、PTAなどの関係団体や地域へのヒアリング・説明会を開催し、市民の皆さんから幅広くご意見を伺う予定です。

庄原市立学校のあり方を考える会

7月27日に第1回目、8月27日に第2回目の会議を行いました。今後は、おおむね全5回程度の開催を予定しています。

会議は公開を基本としており、開催状況や意見交換の内容などは、市ホームページで発信していきます。

